

早稲田大学ビジネススクール主催

# “非常時のいま、求められるIRとは”

## 経営者向けと実務者向けの2つの講座開講

いま必要なIR実務がわかるIR担当者のための

### *I*nvestor *R*elations workshop for *O*fficers IRO ワークショップ

2009.8.6 - 8.25 (全6回)

日本橋キャンパスにて18時20分~20時30分

IRにより経営の活性化をめざす経営者のための

### *I*nvestor *R*elations seminar for *E*xecutives IRE セミナー

2009.8.27 (木) - 8.29 (土) 3日間集中講座

日本橋キャンパスと早稲田国際会議場にて

主催:早稲田大学ビジネススクール

(早稲田大学商学大学院総合研究所 WBS 研究センター)



# はじめに

米国サブプライムローン破綻から始まったこの度の金融危機は実体経済へ波及し、多くの企業にとって、かつて経験したことのない試練の場となっています。公開企業に定着してきインベスター・リレーションズ(IR)についても、資本市場情勢の変化に伴い、そのあり方を根本から見直すことが迫られています。‘機関投資家への情報仲介の役割を担ってきたセルサイド・アナリストは事実上解体’、‘資本市場の“鬼っ子”と見られていたヘッジファンドも霧散’、‘企業の成長に投資する株式市場から消えた“成長”の2文字’、どれをとっても、誰もが未だ経験したことのない局面です。

このような状況にあっても、投資家をはじめとするステークホルダーとの適確なコミュニケーションを保ってきた公開企業は、正当な企業評価を得て、資本市場における有利なポジションをさらに高めている事実があります。その秘密は何か。日頃からの地道なIRの積み重ね、それと情勢変化のポイントを見抜いた果敢な対応、この二つにほかなりません。

早稲田大学ビジネススクールが2004年から取り組んできたIRプロフェッショナル養成講座も6年目を迎えます。2009年度は、これまでの実績を踏まえつつ、非常時に求められるIRをテーマに、成功するIRの秘密に迫ります。IR実務の基本を押さえたうえで非常時にIR実務を担える担当者を養成する「Investor Relations Workshop for Officers (IRO ワークショップ)」、および未曾有の危機に瀕した企業経営をIRによって活性化することを目指す経営者(経営トップ・経営執行者層)を対象とした「Investor Relations seminar for Executives (IRE セミナー)」の2講座を開講いたします。これまでに修了され第一線で活躍されている100余名の方々に、多くの方が続いていただけることを期待しております。

## IRO ワークショップ (Investor Relations Workshop for Officers)

上場企業や上場を目指す企業のIR実務担当者や中間管理職向けの実践ワークショップです。

IRの基本から資本市場の直近の動向まで、最新の活きた知識とスキルを得ることができます。さらに会社説明会を想定した資料作成とプレゼンテーションの実技指導を通じて、IRの実務を担う上でのコンセプトワークや留意すべきポイントをしっかり身につけることができます。講師陣は、関係官庁、取引所、また、財務・会計などの専門家や、現役アナリスト、IR実務経験者などが担当します。会場は、企業のIR担当者が受講しやすい早稲田大学日本橋校を使用し、8月6日から、お盆の時期を除いた週二日、夕刻から開講する計6回の講座です。

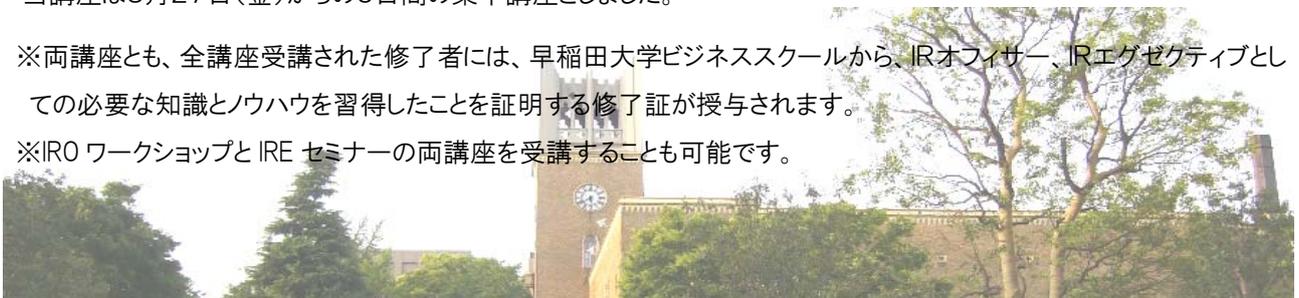
## IRE セミナー (Investor Relations Seminar for Executives)

上場企業や上場を目指す企業の経営トップをはじめ、財務担当役員、IR担当役員、およびその候補者を含めた役員・上級管理職クラスの方々を対象としたエクゼクティブセミナーです。

「なぜ企業経営にIRが不可欠なのか、その経緯と背景」、「世界の資本市場と主要投資家の現状」、「財務戦略を進める上での必要な情報・知識」、「市場から評価される中期経営計画の策定」、「自社のIRの客観的な評価と対応策の分析」、「M&A や敵対的 TOB、委任状闘争などの有事における企業攻防」など、資本市場を軸に置きつつ、現代の企業経営に不可欠なWeb2.0時代のビジネス・コミュニケーションとIRに関する最新の知識と方法論を、各界の一流講師陣や各分野のオピニオンリーダーから学ぶことができます。役員・管理職の方々の忙しいスケジュールを考慮して、当講座は8月27日(金)からの3日間の集中講座としました。

※両講座とも、全講座受講された修了者には、早稲田大学ビジネススクールから、IRオフィサー、IRエグゼクティブとしての必要な知識とノウハウを習得したことを証明する修了証が授与されます。

※IRO ワークショップとIRE セミナーの両講座を受講することも可能です。



# 開講にあたって

## 開講趣旨について

早稲田大学ビジネススクール 教授 花堂 靖仁



過去5年間の講座においては、第1回は「受動的IRから能動的IRへ」、第2回は「転換点を迎えたIR活動」、第3回は「企業戦略としてのIR」、第4回は「企業の持続的成長を目指すIR」、第5回は「企業の持続的成長を支えるIR」をテーマにし、関係者の協力を得てIRプロフェッショナル養成講座を開催して参りました。自らIRの精神・知識・スキルにたしなみ、自社の経営に貢献しようとした経営陣や財務担当役員ニーズに応え、またIRの実務経験を活かしてIRオフィサーとしてのキャリアアップを志向する企業人のニーズに応えることで、受講者および関係者から高い評価を得ることができました。

第6回目のテーマは、「非常時の、いま求められるIR」といたしました。わが国の企業経営に必須のものとして定着したIRは、実は、平時において株式市場のオピニオンリーダーと目されてきた機関投資家を主たる対象として展開してものでした。しかも、その機関投資家の中心は海外からの年金等のファンドでした。

この日本の株式市場における資金の出し手であった海外投資家は、昨秋来の金融危機のなかで、一気に資金を引き揚げました。これに伴う株式市場の縮小により、海外機関投資家を支えてきた外資系セルサイド・アナリストの大半は職場を失いました。かつてヘッジファンドの台頭により「御用聞きアナリスト」と揶揄されるようになっていたセルサイド・アナリストは、さらに厳しい状況に追い込まれ、資本市場の情報仲介者としての存在意義を失いかけています。誰が、企業の価値創造ストーリーを、投資家をはじめとする企業のステークホルダーに適確に伝えてくれるのでしょうか？

答えは明確です。資本市場の情勢変化を受け止め、IRの原点に立ち戻ることです。かつてアメリカにおいて連邦証券法の下における一般投資家向けのコミュニケーション手法をGEが創出したように、企業のIR関係者自らがその任に当たるときです。SWOT分析を踏まえ、自社の価値創造プロセスを客観化し、自らの競争力を殺ぐことないようにIRスキルを駆使し、かつレピュテーション・リスクを負わないように配慮しながら、自社のストーリーを伝えなければなりません。Web2.0のコミュニケーションにあつては、IR活動の巧拙は投資家をはじめとする企業のステークホルダーによる企業評価を大きく左右し、その存亡を決めかねないほど企業経営と深く関わっています。その鍵は次のように要約できます。

- ① 資本市場における自社のポジションを客観的に分析する。
- ② 事業ドメインにおける潜在的能力のなかから自社のコンピテンシーが何かを事業の時間軸と関連させて明らかにする。
- ③ 自社の価値形成がどのようなプロセスで実現されるかを資本市場関係者に説得的に説明する。
- ④ これらの開示情報を投資家以外の主要なステークホルダーとも共有できるように、それぞれの関心と理解力に応じるようにして提供する。

このような認識を基本において、次のように本年の講座を進めます。

**本年は、実務者向けにIROワークショップ講座を隔週に、経営陣・役職者向けにIREセミナー講座を3日間集中でそれぞれ開講します**

本年のIROワークショップ講座は、お盆の時期を除いて、8月に3週間にわたり毎週2日ずつ、合計12コマの講座です。勤務を続けながら受講しやすいように、開講会場を日本橋キャンパスとし、毎回18:20から講習を始めるように致しました。まず、IRの基本となる知識とスキルを、現下の資本市場の状況に即したトピックに関連させながら、講じます。そ

の後に、この講座の最終日に、グループ分けをしてプレゼンテーションのスキルを競っていただきます。「削減されたIR予算のなかで、これまで以上のIR効果を発揮すること」が課せられるプレゼンテーションになります。

いま一つの IRE セミナー講座では、経営トップはもとより、自社のIR活動の執行責任を負うCFOやIR担当役員を対象に、3日間わたる集中講座を参加者で共有していただけないものかと考えております。他社の方々と交流しながら講師陣のメッセージを咀嚼し、自社のIRを自己評価し問題点を探り、構想するこれからの取組みを互いに語り合う機会を持って頂くことが時宜に適っているのではないかと考え、これまでとは異なるプログラムを編成いたしました。この非常時に際し、IRを位置づけなおすことを通じ、自社のビジネスモデルの組み換えが必要か否かを考えていただくことに繋がれば、と考えております。

ところで、この二つの講座は選択の自由度の高い構成としています。たとえば、IR担当者は IRO ワークショップ講座に参加し、その上司が IRE セミナー講座を受講していただくことも一法です。もちろん、IRオフィサーを志向される方が両講座を通して参加していただき、IRに携わってきた先輩の警咳に触れつつIRに関する最新情報とスキルを入手していただくことも歓迎です。皆様の企業の状況や受講生に合わせた多様な受講の仕方を検討いただければと思っております。

貴社のIR活動を戦略的に展開し、この非常時においても自社の持続的成長に繋げていただくため、是非ともこの機会を活用していただければ幸いです。

## 過去の受講者のコメント

第一三株式会社 コーポレートコミュニケーション部 IRグループ長 近藤 成径

IR担当者にとっては、経験を積みれば積むほど、経営者と株式市場関係者の狭間に立つことが多くなり、自分の方向性に関して迷いが生じることがあります。また業務を通して自社・自業界に関する情報収集には熱意を注ぐ一方で、会計・法律・制度といった一般的な最新情報の入手については、意外と無頓着だったりすることもあります。

IRE セミナーは、この二つの課題に応じてくれる講座です。アカデミアの立場から、我々IR担当者に対して貴重な示唆を与えて頂いている花堂先生を筆頭に、様々な分野のプロフェッショナルの方々のお話しを、短期集中で聞くことが出来ます。私自身、10年間の業務経験をブラッシュアップする目的で2008年夏の講座に参加いたしましたが、他の講座にはない充実した内容を「堪能」し、自分自身を活性化する、またとない機会となりました。



# カリキュラム および 講師

## IRO ワークショップ (Investor Relations workshop for Officers)

日程		1時限(18:20~19:20)	講師	2時限(19:30~20:30)	講師
第1回	8月6日 (木)	開講にあたり:なぜ、今IRに取り組むのか	花堂 靖仁	IRの基礎知識・プレゼン課題発表	君島 邦雄
第2回	8月7日 (金)	機関投資家対応と一般投資家対応	岩田 宜子	効果的なIR資料の整備	本多 淳
第3回	8月20日 (木)	最近の資本市場の動向と変化するIR	北川 哲雄	資本市場の仕組みと今後	吉田 幸司
第4回	8月21日 (金)	セルサイド・アナリストから見たIR	松島 憲之	投資家・アナリストのXBRL活用術	竹原 けいこ
第5回	8月24日 (月)	企業価値評価の基礎	西山 茂	企業経営と証券投資の企業価値評価実践	宮永 雅好
第6回	8月25日 (火)	実技:プレゼンテーションの発表		講評と総括	事務局

## IRE セミナー (Investor Relations seminar for Executives)

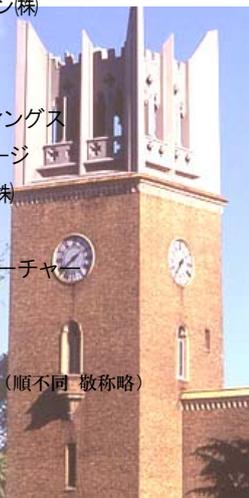
日程		時間	講義内容	講師
第1日 8月27日 テーマ: 事業展開力のIR (木)	1時限 (9:30~10:45)	オリエンテーション:平時のIRと非常時のIR	事務局・花堂	
	2時限 (11:00~12:15)	<資本構成とIR編>資本市場規制 最近の動向	大崎 貞和	
	昼食			
	3時限 (13:15~14:30)	<経営とIR編>戦略的経営にIRを活かす	大久保 尚武	
	4時限 (14:45~16:00)	<経営とIR編>「21世紀型企業情報開示」と中期経営戦略の見せ方	芝坂 佳子	
	5時限 (16:15~17:30)	<経営とIR編>コーポレートガバナンス論の展開	長友 英資	
第2日 8月28日 テーマ: 非常時のIR実践 (金)	1時限 (9:30~10:45)	<経営とIR編>企業財務とIR	高橋 文郎	
	2時限 (11:00~12:15)	<経営とIR編>経済危機下の会社法と関連企業法	鳥飼 重和	
	昼食	ランチョンミーティング エグゼクティブの服装学	古沢 めぐみ	
	3時限 (13:15~14:30)	<経営とIR編>経済危機時における一米国企業に見る株主とのコミュニケーション、M&A 新展開、株主構成の変化への対応など	高山 与志子	
	4時限 (14:45~16:00)	<経営とIR編>IR説明会の課題と対応策	北川 哲雄	
	5時限 (16:15~17:30)	<資本構成とIR編>資本政策とIR-社内議論の進め方	松田 千恵子	
第3日 8月29日 (国際会議場) (土)	1時限 (9:30~10:45)	<資本構成とIR編>機関投資家からみたIRの改善点	蔵元 康雄	
	2時限 (11:00~12:45)	<経営とIR編>経営環境の転換期にビジネスモデルを組替えるには	西山 圭太	
	3時限 (13:00~15:00)	修了式と懇親パーティー	事務局・花堂・君島	

### 【講師陣 (予定)】

北川 哲雄 青山学院大学大学院  
 高橋 文郎 青山学院大学大学院  
 芝坂 佳子 あずさ監査法人  
 君島 邦雄 株式会社 コノノツツ  
 長友 英資 (株)EN アソシエイツ  
 大久保 尚武 積水化学工業(株) 代表取締役会長  
 西山 茂 早稲田大学ビジネススクール  
 花堂 靖仁 早稲田大学ビジネススクール  
 西山 圭太 経済産業省経済産業政策局産業構造課長  
 鳥飼 重和 鳥飼総合法律事務所  
 吉田 幸司 東京証券取引所

本多 淳 ジー・アイアール・コーポレーション(株)  
 松島 憲之 日興シティグループ証券(株)  
 大崎 貞和 (株)野村資本市場研究所  
 蔵元 康雄 フィデリティ・ジャパン・ホールディングス  
 古沢 めぐみ 株式会社プロフェッショナルイメージ  
 松田 千恵子 ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン(株)  
 宮永 雅好 アイ・アール・ピー(株)  
 竹原 けいこ (株)ジャストシステム シニア・リサーチャー  
 高山 与志子 ジェイ・ユーラス・アイアール(株)  
 岩田 宜子 ジェイ・ユーラス・アイアール(株)

※:講師は都合により変更の可能性もございます (順不同 敬称略)



# 開催概要

	Investor Relations workshop for Officers (IRO ワークショップ)	Investor Relations seminar for Executives (IRE セミナー)
【 期 間 】	2009年8月6日～8月25日(全6回)	2009年8月27日(木)～8月29日(土)
【 定 員 】	40名	16名
【 受講料 】	¥75,600- (税込)*	¥168,000- (税込)*
	※ IRO ワークショップとIRE セミナーの両講座の受講をお奨めいたします。(両方受講して頂く場合、受講料は¥214,200-となります。) ※ 1社につき2名以上お申し込みの場合、1受講料は、IRO ワークショップの場合 ¥63,000、IRE セミナーの場合 ¥134,400、両講座受講の場合 ¥197,400 となります。 ※ 会場の都合から、各講座定員に達し次第、申し込みをお断りすることもございます。	
【 主 催 】	早稲田大学ビジネススクール(早稲田大学 商学大学院総合研究所 WBS研究センター)	
【 会 場 】	早稲田大学 日本橋キャンパス (IRO 講座全6回会場及びIRE 講座2日間) 〒103-0027 東京都中央区日本橋 1-4-1 日本橋一丁目ビルディング 5階(コレド日本橋) 早稲田大学 総合学術情報センター 国際会議場 (IRE 講座最終日) 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-20-14	
【 申込方法 】	添付の申込用紙にてお申込ください。	
【お問合せ先】	早稲田大学 IRO 養成講座事務局 (ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社内) 〒102-0083 東京都千代田区麴町 1-10-13 ARCHE 麴町 2F Tel.03-3512-0907 Fax.03-3512-0908 waseda_iro@j-eurusir.com <a href="http://www.j-eurusir.com">http://www.j-eurusir.com</a>	

## 会場マップ

### 日本橋キャンパス



### 国際会議場

